

知性から官能美へ  
目もくらむ愛に包まれて  
バーグマンが変わる！

映画史に残るテクニックを駆使した  
ヒッチコック・ラブ・スリラーの傑作！

\*恋と幻想のストライプが織りなす  
スリルとサスペンス！



SPELLBOUND



イングリッド・バーグマン／アルフレッド・ヒッチコック監督

白い恐怖

グレゴリー・ヘック／レオ・G・キャロル／ロンダ・フレミング  
製作ヒッチコックセルズワック 原作ランスタッド・ヒッチコック 美術サルバトルダリ  
脚本ヘック 撮影ジョン・ハリス 提供イーター・ナショナル・フィルム・ロモーション・タムト





## ■解説

### ★映画史に残る名場面がぎっしり!

イングリッド・バーグマンとグレゴリー・ペックのキッスに続いて7つのドアが次々にひらいてゆく幻想的シーンをはじめ、映画ファンが涙を流さんばかりに喜ぶ名場面がいっぱい。この作品は、スリルとサスペンスの巨匠アルフレッド・ヒッチコック監督が、そのテクニックの総てを駆使したラブ・スリラーの傑作。

精神病院を舞台に、めくるめく愛と殺人事件が華麗に交錯し、想像を絶するストーリーが展開する。

### ★知性美から官能美へ……バーグマン。

この作品の大きなみどころは、バーグマンの美貌と演技にある。精神科の女医に扮するバーグマンは、知性的でクールな女として登場する。だが、やがて恋を知るや、別人のように美しく官能的に変身する。女優を美しく撮る名人ヒッチコックの「魔術」もさることながら、バーグマンの演技の幅の広さにはビックリ!あらためて彼女の偉大さがわかる。

### ★夢のシーンをシュールリアリズムの巨匠サルバドール・ダリが担当!

ヒッチコックのたつての希望で、ペックがみる悪夢のシーンにサルバドール・ダリの美術を使用。映画史上かつてない幻想的シーンを作りあげている。

### ★「面白さ」を保証する豪華なスタッフ、キャスト。

バーグマンの相手役は、名優グレゴリー・ペック。彼はこの作品でスターの座を確固たるものとした。ほかに、「OK牧場の決闘」のグラマー女優ロンダ・フレミング。「逃走迷路」の不気味な殺し屋を演じたノーマン・ロイド、「レベッカ」のレオ・G・キャロルが出演。脚本は「汚名」「嵐が丘」の名脚本家ベン・ヘクト、音楽はこの作品で45年度アカデミー音楽賞に輝いた名匠ミクロス・ローザ、製作は「風と共に去りぬ」などの大プロデューサー、デビッド・O・セルズニック。

### ★想像を絶するストーリー。

マーチソン博士(レオ・G・キャロル)は20年に渡って「緑の荘園」と呼ばれる精神科病院の院長を勤めたが、新院長エドワーズ博士(グレゴリー・ペック)の着任を待って、この病院を去ることになった。

新院長着任の日。コンスタンス・ピーターソン博士(イングリッド・バーグマン)は精神医学界に於いて高名なエドワーズ博士を迎え、何かしらの心の動揺を抑えることが出来なかった。コンスタンスは精神医学の研究に没頭する美貌の女医。エドワーズ博士もコンスタンスの美しさに魅せられていった。

その夜、エドワーズ博士歓迎レセプションが催された。その最中、自分の隣に座った医師が、話しの途中で白いテーブルクロスの上にフォークで線を描くのを見たエドワーズ博士は、急に顔色を青ざめ席を立ってしまった。それを見たコンスタンスはエドワーズ博士に何かのストレスがあることを感じ取った。

新院長のもと病院もまた新たな活動を始めた。そんなある日、コンスタンスはエドワーズ博士が、白地と黒の縞に対して異常な恐怖を持っていることに気づき、彼に疑惑の念を抱き始めた。

そしてその夜、コンスタンスは彼が自分の名前さえ分らない記憶喪失症患者であり、また、彼が持っていたシガレット・ケースのイニシャルが「J・B.」であるという新事実を発見した。彼が精神病に悩んでいることを知ったコンスタンスは、今、精神医としての立場から一層彼に対する愛を深めていった。だが、本物のエドワーズ博士の死体が発見された。事件は以外な方向へ……。

## SPELLBOUND

提供 | P映画

# 白い恐怖

### ★スタッフ★

監督……………アルフレッド・ヒッチコック  
原作……………フランシス・ビーディング  
脚色……………ベン・ヘクト  
撮影……………ジョージ・パーズ  
夢想場面構成……………サルバドール・ダリ

### ★キャスト★

コンスタンス・ピーターソン  
……………イングリッド・バーグマン  
ジョン・バランティン……………グレゴリー・ペック  
カーマイケル……………ロンダ・フレミング  
マーチソン博士……………レオ・G・キャロル  
ゲームス……………ノーマン・ロイド

